

札幌ルポ

～電化厨房から大学キャンパスへ～

庄司 崇彦（しょうじ たかひこ）一般社団法人 日本エレクトロヒートセンター 企画部長

業務用厨房体験施設で電化調理ソリューションを体験し、大学キャンパスでは脱炭素社会実現に向けたエレクトロヒートの今後を紹介。札幌でのワークレポートです。

出発～初日の夜

東京を離れた後、移動中に携帯で目にしたニュースでは、東京都内での落雷により鉄道の一部が運休となっていたことが報じられていました。不安定な天候の東京を後にし、札幌では澄んだ空気と涼しい気候に迎えられ、気持ちもすっと切り替わるような感覚を覚えました。都内では暑さのせい食欲も控えめで、昼食は軽めに済ませましたが、ホテル到着後は翌日の準備を整え、夜には札幌の街へ。地元の味を求めて立ち寄った一軒で、札幌ラーメンをいただきました。旅の始まりにふさわしい一杯でした。

9月9日（火）午前：北海道電力 エレナード・ザ・キッチン 見学

目覚めもよく、かなりの余裕をもって北海道電力・本社方面へ向かうことができました。その前に立ち寄ったのは、近くの札幌・二条市場。朝から観光客で賑わい、私もその活気に包まれながら海鮮丼をいただきました。価格は観光客向けでしたが、新鮮な魚介の味わいは、1日の英気を養うには十分すぎるほど。札幌の涼しい空気とともに、北海道電力・本社へ向かう足取りも自然と軽くなりました。

北海道電力・本社には、私一人で伺いましたが、エネルギーソリューション室の坂本室長をはじめ、皆様にお忙しい中ご対応いただきました。北海道におけるエレクトロヒート技術の営業・販売の状況について、丁寧にお話を伺うことができ、感謝の念に堪えません。特に、近年進むデータセンター等の誘致に関連した販売・工事リソースの動きや、寒冷地ならではのこれからの設備提案の工夫など、地域・現場に根差した貴重なご意見をいただき、私自身、今後のJEHCによる普及活動に向けて多くの示唆を得ることができました。



電化調理のリアル施設
北海道電力 エレナード・ザ・キッチン

昼食～移動

南から北へと移動。札幌の街は碁盤の目のように整備されており、「北〇条西△丁目」といった住所表記で、目的地までの移動のわかりやすさを実感しました。北海道大学に向かう前には、スープカレーをいただき、再び英気を養うひとときに。スパイスの香りと北海道産の野菜の味が、午後の講演に向けて気持ちを整えてくれました。

9月9日（火）午後：日本機械学会 年次大会 講演

日本機械学会・年次大会の学会横断テーマ企画「持続可能社会の実現に向けた技術開発と社会実装」において、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロという国家目標を踏まえた、脱炭素社会の実現に向けた熱エネルギー分野の取り組みが紹介されました（https://pub.conf.itatlas.jp/ja/event/jsme2025/content/public_forum）。日本機械